

新型コロナウイルスの5類感染症への移行にあたって ～これまでの歩みとこれから～

令和5年5月2日

校長 津田康子

天神川小学校新型コロナウイルス感染症対策委員会(県及び市からの要請及び指示を受けて、いち早くかつ的確に、本校の新型コロナウイルスに関わる対策等を推進する。発足から新型コロナウイルスが終息するまで又は、市の対策本部の解散までの期間)を、2020年4月2日に発足させてから、3年あまりが経ちました。同年4月7日には国の緊急事態宣言が兵庫県に発出され、学校は5月6日まで臨時休校になりました。

本校対策委員会では、児童の安否確認から始まり、休校中の学習保障、学校が再開してからの分散登校の手順、消毒や心のケア、行事の持ち方等、学校生活における様々な課題や対応策に取り組んできました。

当時は、各個人用のタブレットなどは無く、学習のためのプリントを職員が大量に印刷して、各家庭へポスティングしました。また、各児童へハガキや返信用封筒を配って、先生に手紙を書いてもらい新しい担任と少しでもつながるようにしました。図書の本の福袋(どんな本が入っているかはお楽しみ)を作り、子どもたちが家庭で読書できる様にしたり、運動不足にならないように家の中でできる体操の紹介をしたりもしました。

学校が再開してからは、校舎に入る前の健康観察表のチェックを地域の方や保護者にお手伝いしていただきました。何ヶ月にもわたり地域や保護者の方々に下足前のテント下で健康チェックをしていただいた風景は今でも忘れられません。しかしながら、コロナ感染により、学級閉鎖や休校も何度となく経験しました。その際は途中から導入されたタブレットを使ったZoomによる学習活動も、ご家庭の協力の下市内でいち早く始めることができました。

とにかく、目に見えないウイルスであり、これまでに経験したことのない感染状況であったため職員も自分の健康に注意を払いながら対応してきました。念のため職員全員がPCR検査を受けたこともありましたが、全員の陰性が判定された時に、心から安堵した時の事を今でも鮮明に覚えています。それでも、3年間の内には職員自身が感染したり、家族の濃厚接触者となったりして、職員が一週間以上出勤できない日もありました。

今ふり返るとこれまで経験したことのない貴重な3年間であったと思います。全てが、今まで通りが通用しない初めての経験で、一つ一つ新たな対応策を考えて進めてきました。

そして、ようやく長かったトンネルを抜け、2023年5月8日からは、新型コロナウイルスは感染症法の位置づけにおいて、5類に移行されました。これにより外出自粛要請が廃止され、学級閉鎖の基準も変わります。ようやく規制がなくなり個人判断となったマスク着用と併せ、学校の教育活動もコロナ感染に振り回されずに行うことができます。

子どもたちは3年という長い期間、新しい生活様式の下、その時その時にできる事に精一杯取り組みてくれました。日常的なマスク着用をはじめ、「おいしい。」「これ、おかわりする。」とにこにこ顔で食べるのが当たり前であった給食時間も、コロナ禍は食器をコスコスとさう音しか聞こえない『黙食』を続けてくれました。6年生の最大の楽しみである修学旅行が中止になった年もありました。その一方では、学校へ来て友だちや先生と一緒に過ごす事は、素晴らしい価値のある事だとあらためて気づく事も多かったです。

職員にとっても、コロナ禍において、当たりの事を当たり前とせず、今何ができるか、どうしたらできるか、と常に知恵を出し合って進んできた事は大きな力になりました。国や市からの新しい情報が通知される度に、何度も対策委員会を開き、予想される問題点や課題を共有し、方策を練ってきました。

保護者のみなさまには、行事の縮小や来校時の制限等、様々に学校へご協力を頂きました。何より、子どもたちを精神面において一緒に支えてくださった事や、あたたかい励ましの言葉をいただいたことに感謝いたします。夏休み中にPTAのご好意でキャンプファイヤーを運動場でしていただいたことも当時の子どもたちにとっては忘れられない出来事だと思います。

今後、コロナが落ちついた先も、『VUCA(不安定・不確実・複雑・あいまい)』な時代と言われる中を子どもたちが生き抜く力を育てるために、家庭と地域、学校が一緒になって一つ一つ乗り越えていきたいと思っています。

